

山行報告

金勝アルプス縦走

日 時：4月27日(日) リーダー：砂川 SL：今山 参加者数：20名

参加者：阿蘇・大瀬・貝塚(文)・貝塚(陽)・北川・荘所・須増・砂川(美)・竹内・利弘
中嶋・長谷川(孝)・船津・待場・三木・森永・山本・渡邊

コース：高砂運動公園 7:35～上桐生バス停 9:45(ストレッチ) 10:01～逆さ観音 10:25～桐生辻出合 11:05(休憩) 11:15～狛坂磨崖仏 11:35～白石峰 12:10(昼食) 12:40～天狗岩 13:10(展望) 13:20～耳岩 13:35～竜王山 14:10～馬頭観音堂 14:20(トイレ休憩) 14:30～金勝寺 14:50(拝観) 15:00 ナンダサカ狛坂石段 15:20～滝広場・桂谷公園 15:45～道の駅・こんぜの里 15:50
(買い物)～高砂運動公園 18:45

金勝アルプス縦走に参加して

中嶋

金勝アルプスとは、滋賀県南部にあり、湖南アルプスの一部をなしている。

7:30、運動公園からバスで20名が出発しました。本日は晴れで雨の心配はなさそうです。

一度、名塩サービスエリアで休憩した後、名神を經由して、大津市の上桐生駐車場に9:45に到着した。駐車場には次々に車が入って来て、このコースに人気があることが伺える。各自準備の後、近くのキャンプ場へ移動し、体操する。10:05砂川会長を先頭に出発した。よく整備された広い道路を2～3人まとまって、和気あいあいと話をしながら歩いた。まもなく、オランダ堰堤に到着、きれいな水が流れており、そばにオランダ技師の銅像があった。それからすぐに、逆さ観音(鎌倉時代作)があった。大きな岩に3体の仏像が逆さに彫られている。何でも、下流の堰堤築造時(明治22年完成)に石材不足が生じて一部が使われ、そのためにバランスを失い山上からずり落ち逆さになったとの事、我々日本人では観音像や仏像の彫られた岩でも、何か尊厳を感じ手を加えるのを控えるものだが、西欧人にはただの岩石に見えるのだろうか？



30分ほど広い道が続いた後、いよいよ山道に入った所で、10分間休憩する。腹ごしらえにパンを食べる。山道であるが比較的手入れされた道が続いている。30分程で平安時代に渡来工によって彫られた狛坂磨崖仏に着いた。6×4.5mの花崗岩に阿弥陀如来像と両側に菩薩像が浮彫りになっていた。立て札があり、このあたりには9世紀頃から狛坂寺があった。

金勝寺が女人禁制の寺だったため、その別院として建立されたが、

明治直前に焼失し廃寺となったとのこと、今は石垣と石仏が残されているだけである。

これより道も狭くなり、花崗岩地帯特有のざらざらした道が続いた。時折満開のつつじがあり、イワカガミの花も咲いている。巨岩が二重にかさなった重岩、茶沸観音(平安前期)の仏像が彫られた岩がある。この山は、今は岩山だが、奈良～平安時代に寺院仏閣の造営に多量の檜が伐採されその結果、表層に出た花崗岩が長い年月の侵食をうけ巨岩、奇岩の風景が出来たとのこと。彫られた仏像や観音像は、その時代が仏教文化の盛んであった様子を伺わせる。白石峰の三叉路に着き、ベンチで昼食を取る。これより、ピストンで天狗岩に向かう。途中、耳岩では多くの登山者が休憩中であつたので、止まらず、そのまま進む、岩の下にザックをおきロープを伝って岩の頂上に登る。大きな飛び出た岩塊で眺望がきき、山全体が見渡される。遠く第二名神道、近江富士(三上山)が見えるが、琵琶湖や比良山系はあいにく霞んで見えない。ここで写真を撮り、引き返す。途中耳岩が空いていたので登る。ボーイスカウトの子どもも登ってきた。もとのルートに戻り竜王山(604.7m)を通過。2:25、馬頭観音堂の駐車場に着く。ここからは日本中央競馬栗東トレーニングセンターがよく見える。これ



より時々車が通る舗道を歩いて金勝寺へ行く。金勝寺は奈良時代に作られた天台宗の寺で、庭には苔が生



え、落ち着いた雰囲気をかもし出していた。又近くに1000年は経つと思われる大杉があった。公園に通じる階段を下り、ナンダサカ狛坂石段を登りきった広場でピンクの八重桜が満開であった。春は“山笑う”と言いますが、本当に私自身うれしくなりました。「こんぜの里栗東」で休憩・買い物を楽しんだ後、帰路に着いた。楽しい山行を、有難うございました。

天狗岩の周りには巨大な岩が重なりあっていました。

大峰山系・稲村ヶ岳《運営委員会練成山行》

日 時：5月2日（金）～3日（土）一泊二日 リーダー：砂川 参加者数：9名

参加者：今山・尾内・西村・舩賀・松下・待場・山本・渡邊

コース

2日：山電・高砂駅 6：30～加古川駅北口 7：05～道の駅あすか夢市 9：00

（休憩）9：20～民宿翠嶺館駐車場 10：35（準備＆ストレッチ）出発 11：20～登山口 11：35～法力峠 13：05～山上辻 14：50（稲村小屋着）

3日：稲村小屋 6：50 発～稲村ヶ岳 7：30（休憩）7：55～大日山 8：35（休憩）8：45～稲村小屋 9：10（休憩他）9：40～法力峠 10：35～登山口 11：45～洞川温泉 12：45（入浴・昼食）15：00～明石 SA17：50～加古川北口 18：15

“ やってまっせ ” 稲村ヶ岳山小屋塾 ＊地形＆気象＊ 松下

紀伊半島の東南部には近畿の屋根といわれる大峰山脈と台高山脈があり、今回の練成山行は大峰の支脈で奥駆けの対象に入っていないが、大峰山脈中央部の全貌を望見できる稲村ヶ岳を運営委員＋エキストラで訪れた。

稲村ヶ岳は、今なお女人禁制の山上ヶ岳の西南にある霊峰で、戦後、女性の地位向上と共に女人禁制が解かれ、女人大峯と呼ばれている。山上ヶ岳からは尾根続きの支峰で、南北5 Km 以上にわたって1400mから1700mの標高を有し、大峰主稜と並行しながら岩稜を横たえている。

稲村ヶ岳は双耳峰で、北側のやや低い釣鐘型の岩峰が稲村ヶ岳の本峰で、大日山とも呼ばれる。狭いピークに大日如来を祀り、昔は村人が雨乞いに登った信仰の山であるという。朽ちかけた鉄梯子と木梯子は要注意箇所です。大日山の裾から少し歩くと、大日のキレットに着く。石楠花の群生を通り、山頂に着くと、360度の展望が開ける。山上ヶ岳、大普賢岳、観音峰・・・昨夜の嵐はウソのようです。

紀伊半島の大部分は山地で、平野が少なく、山がぎっしりと詰まった半島というイメージから紀伊山地と名づけられている。この山地は、南部の熊野灘に近く、大台ヶ原近辺の沖には黒潮が流れているため、温暖な気候となる。しかしながら、標高1200m～1800mの高い山々が連なるので、冬には雪が積もり、夏でも温度の低い日がある。大峰山脈の中心部、弥山（1895m）の年間平均気温が8度、大台ヶ原山では6～7度といわれている。

これらの山域では、年間の降水量が、大峰山脈で3500mm、多雨で有名な台高山脈では、4800mm～5000mmであり、奈良市では1500mmであることから、多雨地帯である。大台ヶ原では大正時代に年間降水量が約8200mm、昭和初期に月間降水量約3500mmという記録が残っている。

今回山行の5月2日の天気についても、洞川では弱雨で、登山中も弱雨でした。

しかし、山上の小屋の主人からは大荒れという連絡を頂きました。そして、山小屋では、夕方から未明にかけては強風と強雨でした。これは潮岬沖を寒冷前線と停滞前線と温暖前線を



伴った 1002hPa の低気圧が北東へ毎時 20Km の速さでゆっくり移動したためです。

いつも、山行前は装備の用意で手一杯で、机上の準備を疎かにしています。これは、現役組には厳しい事ではあるのですが、一歩進んだ山登りのためには反省材料とします。
天気図を描くのも、地形図から概念図を作るのも大切な準備です。山登りを楽しむために、もう少し頑張ってみようと思う。

ちょっと一言

「金勝アルプス」山行

上桐生バス停を出発しオランダ堰堤を左に見て林道を進んで行きますと、逆さ観音が有り、さらに岩の多い登山道を登って行くと、狛坂磨崖仏縦 6 m 横 4 . 5 m の花崗岩の磨崖面に三尊像が彫られている前に着きました。その後、稜線の登山道を進んで重ね岩、天狗岩、耳岩等の岩場に立ち寄りましたが、展望も良く、巨大な奇岩は迫力満点で近江富士も見ることが出来ました。金勝アルプスは路線バスやマイクロバスで来る多くの登山者にも出会い、山は新緑に染まって、八重桜、黄桜、スミレ、イワカガミ、山つつじ等の花も見ることが出来た楽しい一日でした。
芝桜（ペンネーム）

「稲村ヶ岳」山行

小雨が降っていたので、出発時から雨具を着て出発。山小屋近くで多少風が出てきたものの、それほど強い雨ではなかったが、リーダーの判断でその日はここで山行を中止し、稲村ヶ岳山荘に入った。ところが暫くして天候は一変して風雨は強まり、春の嵐となる。強い雨は朝方まで続いていたが、夜明けと共に天気は回復、明るい日差しがさしてきた。

山の天候の激変ぶりを体験した山行でした。山行に際し、気象予測の大切さを改めて実感しました。
渡邊

「初めての山歩き教室に参加」

先日、「初めての山歩き教室」に出席した。受講生の皆さんの真剣な眼差し、何か自分が登りたいと思っている山の頂上でも見上げているような、そんな時、頭の中は 100% 山のことだけというように見受けられる顔・顔・顔・・・、勿論スタッフ陣も同じだ。どえらい所に飛び込んだものだと思うと少し怖くなった。何故かと言えば私の頭の中は常に 70% 位はアユ掛けのこと、まして解禁間近い現在は 95% 位がそれ。美しい本物の若アユ（加古川駅前の剣番筋や東加古川駅周辺の若アユとは違います。立派なうろこも尾びれも付いています）を如何に引掛けるか。山遊会に入った理由はあくまでも足腰を鍛えて川に入れる十分な体力をつけることなのです。

Aso